

4 市民ワークショップ記録

『いっしょに考えませんか？図書館の“未来”』

2017年（平成29年）

- ◆7月2日（日） 午後1時30分～4時45分《中央図書館》
講演会＋ワークショップ ①「“私たち”がほしい図書館」

- ◆7月23日（日） 午後1時30分～4時30分《二俣協働センター》
ワークショップ ②「中山間地域×図書館の未来」

- ◆8月27日（日） 午後1時30分～4時30分《中央図書館》
ワークショップ ③「まち×図書館の未来」

- ◆9月24日（日） 午後1時30分～4時30分《中央図書館》
ワークショップ ④「まとめ：私たちの図書館～未来へつなぐ～」

第1回

- 1 日時：2017年7月2日（日） 午後1時30分～4時45分
- 2 会場：中央図書館
- 3 参加数：講演会 55人、ワークショップ 28人
（ワークショップ参加者内訳：一般 15人、大学生 11人、高校生 2人）
- 4 内容：《第1部》 午後1時30分～3時
講演会『いっしょに考えませんか？図書館の“未来”』
講師・岡本 真氏（アカデミック・リソース・ガイド株式会社代表取締役）
《第2部》 午後3時15分～4時45分
ワークショップ『“私たち”がほしい図書館』
・数班に分かれてのグループワーク、全体発表、講評

講演では、“人生の全てをサポートできる”という公共図書館の可能性と、近年の特長的な取組みが紹介された。図書館が持つ基本的な機能である「情報・知識へのアクセス」を住民にしっかりと保障しつつ、新たな機能として、『共創の場』『賑わいの場』『MLA連携の場』『課題発見・解決の場』としての図書館を、市民協働により創り上げていく必要性があるとの内容であった。

講演に続くワークショップでは、『“私”がほしい図書館』という“要望”の訴えではなく『“私たち”がほしい図書館』とは何かを、世代や立場を超えて話し合い、考えていった。

話し合いの中では、図書館に「親しみやすさ」を求める声が多数あげられた。特に子育て世代は、静寂が求められる図書館を子連れで気兼ねなく利用することが難しいと感じているため、**気軽に来館できる環境作り**が求められている。

また、利用者同士が「繋がる」場としての図書館を求める声も多かった。同じ関心事や悩み事を持つ人同士、逆に全く接点を持たない人同士が出会い、**交流が生まれる場**としての役割である。

一方で、図書館でこそ静かに集中できる時間を過ごしたい、と考える人も多く、『**繋がらない自由**』として、ひとりでゆったりと過ごせる場所の提供も望まれた。

また、「司書に相談できる」「職員とのコミュニケーション」など、「**図書館職員との繋がり**」を求める声もあった。



第2回

- 1 日時：2017年7月23日（日） 午後1時30分～4時30分
- 2 会場：二俣協働センター（天竜区）
- 3 参加数：17人（内訳：一般7人、大学生9人、高校生1人）
- 4 内容：ワークショップ『中山間地域×図書館の未来』
 - ①第1回ワークショップの振り返り
 - ②会場を起点に周辺の「まち歩き」
 - ③マップ作成、グループごとに発表

第1回ワークショップで話し合った内容を再確認した後、地元在住者とそれ以外の人とが混在するグループを作り、以下の点を意識しながらグループごとに「まち歩き」を行った。

- ・このまちの魅力は何だろう？それを図書館に取り入れられるか？
- ・前回の話し合いの中で出された『私たちがほしい』図書館の機能は、図書館以外の場所にあるだろうか？
- ・このまちの課題はなんだろう？それを図書館が解決できるか？
- ・まちと図書館がつながるには、どうしたらいいだろう？

「まち歩き」の後は会場に戻り、グループ内でそれぞれの場所を思い出しながら、気付いたことや感じたことを話し合った。話し合った内容は付箋に書きこみ、写真と共に白地図に貼ってマップを作成した。



第3回

- 1 日時：2017年8月27日（日） 午後1時30分～4時30分
- 2 会場：中央図書館
- 3 参加数：12人（内訳：一般10人、大学生2人）
- 4 内容：ワークショップ『まち×図書館の未来』
 - ①前回までのワークショップの振り返り
 - ②会場を起点に周辺の「まち歩き」
 - ③マップ作成、グループごとに発表

第1回及び第2回ワークショップの振り返りを行い、『“私たち”がほしい図書館』を念頭におきながら、中央図書館を起点に「まち歩き」を行った。

「まち歩き」後の話し合いでは、前回よりも一歩踏み込んだ議論が行われた。

第2回、第3回の「まち歩き」を通じ、これまで気がつかなかった自分たちのまちの魅力を再発見した、という声が多くあがった。そのうえで、「ほしいと思っていた機能はすでにまちにあった。それをいかすべきではないか」「ほしいものすべてを図書館に集約する方が良いのだろうか」「まちと図書館がつながるにはどうしたらいいだろうか」など、ただ図書館に多くの機能を求めるのではなく、自分たちの暮らすまちとの関わりの中で図書館の役割を考える機会となった。

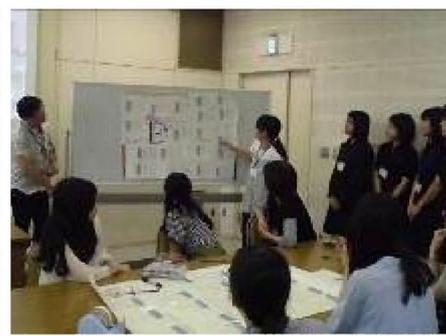
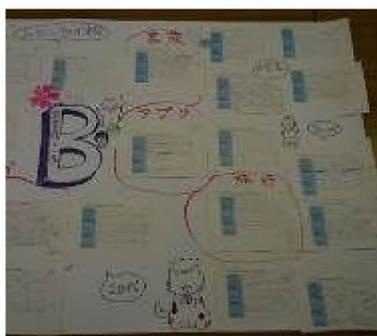


第4回

- 1 日時：2017年9月24日（日） 午後1時30分～4時30分
- 2 会場：中央図書館
- 3 参加数：17人（内訳：一般8人、大学生9人）
- 4 内容：ワークショップ『まとめ：私たちの図書館～未来へつなぐ～』
 - ①前回までのワークショップの振り返り
 - ②ストーリーボード作成、グループごとに発表、講評

前回までのワークショップの中で生まれた“気付き”を、参加者が自分の言葉で語り合った。そして、それまで考えてきた『“私たち”がほしい図書館』が実現した世界のストーリーボードを作成した。

「①どんな人？（年齢、職業など）」と「②その人の背景（悩み、関心など）」を設定し、「図書館にどんな役割・機能があれば、その人は図書館を活用するだろうか？どんなふう利用するだろうか？」と、自分以外の＜私たち＞に対する想像力を膨らませ、様々な年齢、社会的背景、関心、悩みを持つ人々が、図書館を利用することで人生を少しずつ豊かにしていく姿が描かれていった。



市民ワークショップ（全4回）まとめ

～ “私たち” がほしい図書館は～



5 図書館協議会

任期：平成 29 年 7 月 1 日～平成 31 年 6 月 30 日

浜松市立図書館協議会委員名簿

No.	選出	氏名	肩書・経歴等
1	学識経験者	酒井 勇治	元浜松学院大学現代コミュニケーション学部准教授
2	学識経験者	小杉 大輔	静岡文化芸術大学文化政策学部文化政策学科准教授
3	家庭教育関係者	石野 純子	浜松学院大学現代コミュニケーション学部准教授 元浜松市立中瀬幼稚園園長
4	社会教育関係者	天野 真幸	浜松青年会議所副理事長
5	社会教育関係者	中村 憲右	浜松読書文化協力会会長
6	社会教育関係者	新貝 富美子	元かたりべの会会長
7	社会教育関係者	屋名池 倫子	浜松市PTA連絡協議会広報委員長
8	学校教育関係者	渥美 岳博	元浜松市教育研究会学校図書館研究部長

≪「浜松市図書館ビジョン」策定に係る図書館協議会の開催経過≫

- 平成 29 年 11 月 2 日 平成 29 年度第 2 回会議後、概要の報告
- 平成 30 年 3 月 22 日 平成 29 年度第 3 回会議にて原案の審議
- 平成 30 年 8 月 2 日 平成 30 年度第 1 回会議にてパブリック・コメントの中間報告

浜松市図書館ビジョン

2018年（平成30年）10月

浜 松 市
中央図書館

〒430-0947 浜松市中区松城町 214 番地の 21

TEL 053-456-0234 FAX 053-453-2324

ホームページ URL <https://www.lib-city-hamamatsu.jp/>